

日本海周辺クロマグロ調査

(水産資源調査・評価推進委託事業 (国際水産資源))

森脇和也・寺戸稔貴

1. 目的

日本海周辺海域に分布するクロマグロの資源評価のために必要な情報収集を行う。

2. 方法

(1) クロマグロ仔魚採集調査 (産卵場推定)

試験船「島根丸」により直径 2.0 m のリングネットを使用し、船速 2.0 ノットで 10 分間の表層曳きを実施した。

調査期間は 2022 年 (令和 4 年) 8 月 22 日～23 日、調査海域は隠岐諸島西側 12 点とした (添付資料図 1)。

(2) リアルタイム漁海況情報収集調査

クロマグロ当歳魚加入状況の早期把握をするため、養殖用種苗クロマグロひき縄釣漁船へデータ転送機能付き GPS データロガーを設置した。本機器によって、当歳魚の漁獲尾数、漁場位置および表層水温をリアルタイムで収集した。

(3) クロマグロ当歳魚曳縄釣調査

試験船「やそしま」によりひき縄釣で当歳魚を採捕し、尾叉長測定後に標識放流した。漁具、漁法および漁場については隠岐諸島の曳縄釣漁業者と同様とした。

(4) 漁獲実態調査

市場で水揚げされた漁獲物の尾叉長測定を実施した。

また、マグロ類およびカジキ類の漁獲統計資料を収集および整理した。入段数の分からないデータについては、漁業協同組合へ聞き取り調査を行い、漁獲尾数を推定した。

3. 結果

(1) クロマグロ仔魚採集調査

(国研) 水産研究・教育機構 水産資源研究所 (以下、水産機構資源研) へサンプルを送付し、仔魚採集尾数を解析中である。

(2) リアルタイム漁海況情報収集調査

水研機構資源研と共同で GPS データロガーを運用し、2022 年 (令和 4 年) 9 月～12 月に浦郷、海士および知夫の曳縄釣漁船 (計 16 隻) からデータを取得した。本調査によって、クロマグロ当歳魚の加入状況について早期把握がなされた。

(3) クロマグロ当歳魚ひき縄釣調査

2022 年 (令和 4 年) 10～11 月に隠岐諸島周辺で計 2 回の調査を行った (添付資料図 2)。採捕した当歳魚 50 尾の尾叉長組成は 290～510mm の範囲であった。また、そのうち 43 尾は尾叉長の測定後 (添付資料表 1) に標識放流した。

(4) 漁獲実態調査

仁摩漁港で水揚げされた漁獲物の尾叉長測定を 1 回実施した。443 尾を測定し、尾叉長組成は 395～651 mm であった (添付資料表 2)。

尾叉長測定の結果および漁獲統計資料は、日本エヌ・ユー・エス株式会社へ報告した。

4. 成果

水産機構資源研、民間企業および関係各県の水産研究機関と協力して、クロマグロの資源評価を行った。

なお、当県の研究結果は、隠岐島ヨコワ釣り連絡会、調査船調査報告会、現場実態調査 (まぐろ・かじき類及びびさめ類) 年度末打合せで報告した。